

広島大学大学院

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

平成 27 年度第 3 回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを開催しました

平成 27 年度第 3 回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーでは、平成 27 年 6 月 25 日に、講師として福島県南相馬市友伸グランド応急仮設住宅自治会長の杉重博氏をお迎えし、「南相馬市仮設住宅に移り住んでの 4 年間 ～福島第一原子力発電所事故の放射線災害による仮設住宅での生活について～」と題してご講演いただきました。本セミナーは、プログラムの授業科目等を広島大学内へ公開することにより、本プログラムの取組みを広く周知し理解を深めてもらうことを目的として開催しています。

会場にはプログラム履修学生はもちろん、プログラム外からの参加もあり、約 25 名が参加し活気にあふれたセミナーとなりました。

講演では杉氏から、東日本大震災に起因する津波被害、そして福島第一原子力発電所事故による南相馬市の住民の避難と避難生活の苦労について、また、避難所から仮設住宅に移り住んでからの経験などについてお話をいただきました。最後にコメンテーターの浦辺プログラム担当者（広島大学医歯薬保健学研究院教授）から、「今日は、被災された方のご苦労や経験を生で聞くことができ感謝するとともに、9月に短期フィールドワークで仮設住宅訪問する際に向けて非常に有益な事前学習となった。」と締めくくり、参加者にとって非常に有益なセミナーとなりました。



講演の様子



記念撮影